

「松永に学ぶ産業と文化」 令和5年度実施報告

共同利用センター 鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、共通教育科目の教養教育科目群として「F群（地域学）」を設置し、平成29年度から「備後に学ぶ地域の課題」という科目を実施している。7年目となる令和5年度の実施内容について報告する。

令和5年度の実施概要

本科目は、福山市経済環境局文化観光振興部 文化振興課に協力いただき、「松永はきもの資料館」（あしあとスクエア）を利用した科目で、学生自身で学習課題を考え、調査研究を行うことで地域社会のあり方を考える科目である（参考資料1）。

この科目は、4月中旬に受講の説明会を行い、学生が受講するかどうかを決定し、4月～5月上旬に「松永はきもの資料館」の見学を行い、それをもとにして学修するテーマを考えるという手順を踏む予定となっている。過去3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、例年と異なる対応となっていたが、今年度は通常に近い形式で実施できた（参考資料2）。授業内容の説明の前に、受講希望者に対して Cerezo のコースニュースを通じて授業を受講するために必要な事項を掲載し、さらにコースコンテンツに「松永はきもの資料館」に関する手持ちの資料を掲載して受講の検討の助けとした。その結果、受講登録を行ったのは昨年とほぼ同数の9名であった。比較的多い人数（一昨年は4名、その前年度は3名）であったが、鶴崎だけで担当することにした。なお、残念ながら、このうち3名は受講を途中で取り辞めた。これら放棄した受講生のうち1名は履修当初から出席がなく、あとの2名は前期の間は調査およびその報告を行っていたが、夏季休業期間に学修が進まず、そのまま放棄となった。

授業については、履修登録後に事前配布の資料等をもとに、各自で一旦テーマを考えてもらい、当初の予定（4月中）より遅かったものの5月13日にはきもの資料館の見学を実施（写真1）して、テーマを考えてもらった。はきもの資料館の見学には、大学教育センターの松本陵磨講師も参加された。見学後、学生ごとに Cerezo のプロジェクトに学修を進めるための個別のページを作成した。そこに各自で調べた内容を提出してもらい、それを資料として、2週間に1回程度、個別の面談曜日時間を決め、学生と情報交換を行うことで前期の授業期間中については、授業を展開した。夏休み開始以降、後期が始まる9月末までは Cerezo を使って情報交換を行った。9月の後期の初回には、夏休み期間中の調査も含めた中間報告をしてもらい、その内容をもとに残りの期間の方向性を決めた。それに従って学習を進め、12月に入って以降は、公開発表会を見据え、発表用のパワーポイントのスライドの作成、発表の練習などのため、面談のペースを週1回程度に変更し、進展具合によってはさらに頻度を高めて、発表の準備を行い、公開発表会（1月20日）までに完成させた。発表会については、過去には「松永はきもの資料館」のロビーで実施していたが、同時に発表を行う「備後に学ぶ地域の課題」の受講者数との兼ね合いから、福山大学社会連携推進センターで行うこととした。公開で行うため、大学教育センターの日暮助手の協力で広報用のポスター（参考資料3）を作成し学内への掲示、および、福山市経済環境局文化観光振興部 文化振興課、「松永はきもの資料館」へも協力をお願いした。



写真1 はきもの資料館見学

発表会当日は、9時30分に福山大学社会連携推進センターに集合し、10時から参考資料3の順で一人10分の持ち時間で発表を行なった。

発表会での質疑応答の結果を受け、2月4日を期限に受講生ごとに最終報告のレポートを作成した。

令和5年度の成果・発表について

「松永はきもの資料館」には、履物以外にも、全国の玩具や松永地域の伝統産業に関する機械などが展示されている。これらの展示をもとに学生が発想したテーマのうち、展示内容に直接的に関連する、はきものに関するもの、玩具に関するもの、塩に関するもの、も1題ずつあったが、発想を広げ、伝統文化、スポ

一つ、地域貢献に関するものもあった。(写真 2)。

十二支と干支 (人間文化学部 1 年 景山美幸)

十二支とは、子丑寅卯辰巳馬未申酉戌亥の十二の動物のことである。その起源は、木星が約 12 年で天球を一周することが元であるという説や中国の殷の時代の甲骨文字に十干十二支表があったことが元であるという説など諸説あるが、それを文字が読めない庶民でも把握できるように動物を配したらしい。アジアを中心に十二支があり、地域によって一部の動物が異なる。一方、干支とは、十二支と十干を組み合わせたものである。十干とは、木・火・土・金・水の五行を兄(え)・弟(と)に分けて、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸で表し、日、月、年などの時間の単位を表すために使われ、また、占いや命名などにも利用されている。この組み合わせは 60 通りであり、1 周することを還暦という。

ヒール靴の過去と現在 (人間文化学部 1 年 門屋紬希)

ヒール靴はかかとに高さをつけた靴のことである。ヒール靴に起源には 3 つの説がある。一つは、ヨーロッパにおいて肉屋の床に付いた血や路上の糞尿などの汚れを避けて歩くため、チョピンという靴があった。もう一つは、背を高く見せるため、ルイ 14 世が自身の権威を示すために利用していたことが有名である。あと一つは馬に乗る際のあぶみに足をかけ固定させるためである。以前は男性もヒール靴を履いていたが、17 世紀ごろに出てきた啓蒙思想をもとにした男性の虚飾放棄の影響によってあまり履かなくなった。男性がヒール靴を履くことについて、どのように感じるかを調査すると、違和感を持つ人が多いという結果となったが、一方で、多様性を認めることが重要との意識を持っている人が多数を占めていることも分かった。

安芸市の観光マップ！安芸城跡を中心にして (人間文化学部 1 年 小松希実)

高知県安芸市は高知市の東に位置し、様々な観光地があるがあまり観光客は多くない。そこで安芸市の中でも有名な観光地である「安芸城跡」を、高知城と福山城と比較してみた。高知城や福山城は天守閣も残っており、イベントなどの企画も多いことがわかった。安芸城跡は天守閣が残っていないが、そのことをメリットとして捉え、広い敷地を使いイベントを企画することや、定点カメラを設置し、自然豊かな安芸市の風景を SNS 等で発信していけば観光客が増えるのではないかと考えた。また、行政と共同で地域住民を巻き込んだボランティアガイドの育成も重要と考えた。さらに、安芸駅から「安芸城跡」をめぐる観光マップを作成した。

塩の持つ歴史 (人間文化学部 1 年 福定瑞規)

塩 (NaCl) について、用途、人体への影響、生産の歴史について調べた。塩は、調味料など食用としての利用は 1 割程度で、約 9 割はカセイソーダの生産など工業的に利用されていることが分かった。人体にとって、塩は不可欠な成分であり、不足すると神経伝達に悪影響を及ぼすことが分かった。一方で、過剰に摂取しても高血圧症などを生じることも分かった。また、日本における製塩は農業を行うようになった縄文時代後期から行われるようになり、平安時代を通じ高級品だったが、江戸時代に生産技術の向上で庶民にも利用できるものになった。世界では、13 世紀末のフランスや 20 世紀初頭のインドにおいて、塩税をめぐる市民活動によって革命的な変化が起きた歴史がある。

遊びの変化 (人間文化学部 1 年 堀部萌果)

日本には、昔から知られている子どもの遊びとして、独楽・お手玉・けん玉・羽子板・めんこなどがある。第二次世界大戦後の 1950 年代の復興期から高度成長期にかけて、遊び道具も、クラッカーボール・ホッピング・野球盤・フラフープなどに変化し、今でも受け継がれている遊びとして、缶蹴り・ドッチボール・縄跳びなどがある。近年では、オンラインゲームやスマホでの動画視聴などが多く、道路の利用の制限や公園の利用の規制などもあり、以前に比べて集団での外遊びをする機会が少なくなっていることが分かった。社会性を身につけるためには、集団での外遊びが重要であり、その垂ためには、公園などの施設を増やしたり、子どもたちが過ごしやすいルールを設けるなどが必要と考えた。

新井さんじゃけえカーブは進化し続ける (人間文化学部 1 年 南菜月)

広島東洋カーブは、原爆の被害から復興するための象徴として創設された。これまで 2 度の黄金期があり、2 度目の黄金期に活躍した新井貴浩氏に着目した。新井氏は広島出身で 1999 年にカーブに入団し活躍したが、2007 年に阪神タイガースに移籍した。阪神在籍時に、北京オリンピック日本代表となるなど活躍をしたが、出場機会の減少から 2016 年にカーブに再度移籍した。2016 年の優勝に大きく貢献した後、2018 年に引退した。引退後、解説者を経て、2023 年カーブの監督となり、5 年ぶりにクライマックスシリーズに導いた。新井氏のどんな逆境でも絶対後ろは向かない点、悩みやネガティブな感情を表に出さない点、カーブを家族と思っている点から、ますます「新井さんじゃけえカーブは強くなる」と考える。

世界の十二支

中国	韓国	タイ	インド	ベトナム	フランス	ロシア
子	子	子	子	子	子	子
丑	寅	丑/水牛	丑	水牛	丑	丑
寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅
卯	卯	卯	卯	卯	卯	卯
辰	辰	辰	辰	辰	辰	辰
巳	巳	巳	巳	巳	巳	巳
午	午	午	午	午	午	午
未	未	未	未	山羊	山羊	未
申	申	申	申	申	申	申
酉	酉	酉	ガルダ	酉	酉	酉
戌	戌	戌	戌	戌	戌	戌
亥	亥	亥	亥	亥	亥	亥




昔と今の子供たちを取り巻く環境の違い

場所	社会環境	家庭	遊び
昔 空き地や広場で自由に	社会的意識が高い	兄弟が多く、縦の組織がはつきり	外遊びかつ大人数
今 空き地や広場の減少、公園でのボールの規制	他人の子供に無関心な大人が増えた	家族間での刺激が少なくなった、習い事や塾の時間が増えた	室内でかつ少人数

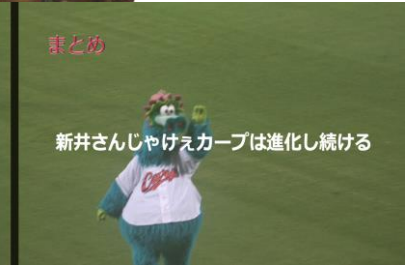


写真2 発表スライドの一部

発表会（写真3）には、授業担当の鶴崎と大学教育センターの津田准教授、そして、大塚学長、鶴田大学教育センター長、および、福山市経済環境局産業振興課から1名に出席いただいた。また、今回の発表会は、昨年までに引き続き「備後に学ぶ地域の課題」の成果発表と同時に行った。そのこともあり、「備後に学ぶ地域の課題」に参加の学生の友人学生3名（本学以外の学生1名含む）も聴講くださった。本講義においては上述の6題の発表であった。発表者は可能限り準備を行なっており、素晴らしい発表ができたものと思う。

今後の課題

過去6年の受講生は、昨年（10名）を除き、毎年4名程度であり、教養科目としては寂しい状況が続いていたが、今年度は9名の受講（最終的には6名）であり、徐々にではあるが学生に認知されてきたものと思う。今回は、コロナ禍にあった昨年までと異なり、Cerezoでの情報提供に加え、履修期間中に面談を行うことができた。しかしながら、事前面談を実施したにも関わらず、3名の受講生が途中で履修を放棄することになってしまったことは、残念であった。この科目は専門科目と異なり学生にとって必ずしも単位取得が必要ではない上に、座学とは異なり自身で課題設定を行い、調査研究を進める必要があるため、放棄した受講生にとっては少し難しい科目と思われたのかもしれない。授業の進め方を含め今後の課題として真摯に向き合う必要があると考えている。一方で、他の受講生の多くは比較的学修意欲が高く、昨年度同様に積極的に調査研究を行い、私と活発な意見交換を行った学生もいた。特に、授業の後半の発表用のスライド作成の際には、ほとんどの受講生が自身の考えをはっきり表明できるようになった。



写真3 発表の様子

令和5度は、福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課の協力と「松永はきもの資料館」（あしあとスクエア）事務長の高橋成規氏のご協力でも無事に授業を展開することができた。令和6年度には、今回生じた課題の解消に努め、充実した授業内容を目指したい。

(参考資料 1) シラバスの概要

講義名	松永に学ぶ産業と文化		
開講期・曜日・時限	通年・集中講義扱い	単位数	2 単位
授業のねらい、概要	松永の「松永はきもの資料館」（あしあとスクエア）には、世界中のはきものを始め、地域の伝統産業に関わるものや文化に関するものが展示されています。この資料館を見学することで、産業の栄枯盛衰、文化の継承など、様々な観点から地域について学ぶことができます。そこで、この資料館の見学を通じて、学習者自身の観点で地域の産業や文化について考えてもらいます。		
授業（学習）の到達目標	地域の産業や文化について自身で課題を考え、調査研究することで、地域社会のあり方を考えることができることを目指します。また、その成果をもとに、地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。また、学修を通じて、コミュニケーション能力を身に付けることも目指します。		

(参考資料 2) 授業日程と実施内容

日程	内容	実施概要
4 月中旬	受講説明・登録 担当教員の決定 テーマの検討	履修登録完了までの間、受講についての説明、受講登録 受講人数で担当教員を決定（今年度は 9 名の受講で鶴崎のみの対応） 各種資料をもとに学生自身で検討
5 月 13 日	「松永はきもの資料館」見学会	実施場所：「松永はきもの資料館」 実施時間：10 時～12 時（以降は、自由に観覧） 実施内容：「松永はきもの資料館」展示物の見学
5 月～6 月	テーマの決定 調査研究の準備	担当教員と Cerezo を通じて相談の上、決定 資料集めの方法など、調査研究の方法について担当教員と検討
6 月～7 月	調査研究	6 月中は、Cerezo を通じて情報交換を行う。7 月は、定められた面談日程に従って、担当教員に定期的な報告を行い、調査内容について指導を受ける
8 月～9 月	調査研究	テーマに沿って、「松永はきもの資料館」などの見学、資料の閲覧、現地調査などを行い、各自で学修を進める
9 月下旬	中間報告 調査研究内容の再検討	この時点までの調査研究内容をまとめ、担当教員に中間報告する 担当教員と相談しながら、残りの期間で調査研究する内容についての目標を定める
10 月～ 11 月中旬	調査研究	再検討の結果を受け、各自で学修を進める 定められた面談日程に従って、担当教員に定期的な報告を行い、調査内容について指導を受ける
11 月～ 1 月中旬	スライドの作成	調査研究の結果から、プレゼンテーション用のパワーポイントスライドを作成する 定められた面談日に担当教員に定期的な報告を行い、調査内容について指導を受ける
1 月 20 日	プレゼンテーション	社会連携推進センターにて、パワーポイントによる発表を行う 一般にも公開し、意見を仰ぐ
1 月下旬	レポートの作成	プレゼンテーション時の質疑を反映させて、必要なら追加の調査を行い、レポートを作成
2 月 4 日 (締め切り)	レポートの提出	完成したレポートを担当教員に提出

(参考資料3)

「松永に学ぶ産業と文化」 「備後に学ぶ地域の課題」 成果発表会

共通教育科目(教養科目 F群 地域学)「松永に学ぶ産業と文化」と「備後に学ぶ地域の課題」の受講生による成果発表を行います。是非、聴講にお越しください。

日 時： 令和6年1月20日(土) 10:00~12:15
場 所： 福山大学社会連携推進センター 902、903 教室
福山市丸之内1丁目2-40
JR 福山駅北口から徒歩2分



タイムテーブル

10:00 開会

10:05 「松永に学ぶ産業と文化」成果発表

- 十二支と干支(人間文化学部1年 景山美幸)
- ヒール靴の過去と現在(人間文化学部1年 門屋紬希)
- 安芸城跡を中心に考えた観光マップ(人間文化学部1年 小松希実)
- 塩の持つ歴史(人間文化学部1年 福定瑞規)
- 遊びの変化(人間文化学部1年 堀部萌果)
- 新井さんじゃけえカーブは進化し続ける(人間文化学部1年 南菜月)

11:20 「備後に学ぶ地域の課題」(デニム産業の活性化を考える)成果発表

- デニム×キャンプ用品(A チーム)
- デニム×ご当地(piece チーム)
- デニム×エンタメ(デニム工房 チーム)

12:00 講評

12:15 閉会



※発表題目、順番等の変更の可能性があります。

(問い合わせ先)

福山大学共同利用センター 鶴崎

(e-mail: k-tsuru@fukuyama-u.ac.jp)

